

# 室内野球練習場を開設

## 札幌の会社が貸し出し



自社敷地内に室内練習場を作った勝浦隆博社長。「冬も思い切り練習してほしい」と話す

# 好評「冬も実戦感覚養える」

建機レンタルの「カツウラ建機」(札幌市白石区)が野球用の室内練習場を作り、少年野球チームなどに貸し出ししている。宣伝は特にながらも申し込みが相次ぎ、今冬は既に7割以上が予約で埋まっている。一部の強豪校を除き、室内練習場を持つ野球チームは少なく、冬の練習場所を確保するのは難しい。冬季にボールを使った練習ができないチームは多く、野球関係者は歓迎している。

(大脇聡、門馬羊次)

室内練習場は昨年12月、白石区川下の自社敷地内に新設した。土のグラウンドで縦36メートル、横18メートルとネットに覆われている。キャッチボールはもちろん、シートノックやバッティング練習も可能な広さ。

勝浦隆博社長(41)は自社の草野球チームのメンバーで、少年野球チームのコーチも務めている。

札幌市内には市営や民営の室内練習場があるが、数が少なくなかなか予約を取れない。勝浦社長は冬の練習場所を確保する難しさを痛感してきた。周りにはパスをチャーターして市外まで通うチームもあり、「満足に練習できない子供たちのために、少しでも力になりたい」と室内練習場を作った。

料金は光熱費や暖房費込みで1時間4320円。利用しやすいよう、公共施設並みの料金に抑えた。1年目は地元の少年野球など数

### 慢性的な施設不足 土日に利用集中

札幌市内の野球グラウンドや練習場は慢性的に不足している。特に冬季は数少ない室内練習場の「争奪戦」となり、バッティング練習ができないチームもある。指導者らは施設の拡充を求めている。

道内の各野球連盟などでつくるNPO法人北海道野球協議会(札幌)は21日から、札幌市内にナイター照明付きの野球場新設を求め署名活動を始める。札幌市内で硬式野球のナイター

チームが使うだけだったが、今冬は口コミで知ったチームから予約が殺到した。西区や東区の少年野球チームなど十数団体が使う見通し。

札幌光星高野球部は今年1月から3月に、週2回のペースで利用した。それまで冬場の練習は体育館で、硬式球を使った打撃練習やノックはできなかったとい

い、合坂真吾監督(39)は「硬式球を使い、スパイクを履

試合ができるのは札幌ドームだけ。照明のない円山、麻生の面球場も利用が過密化しており、札幌市内のチーム同士が市外で試合することもあるという。

協議会の柳俊之理事長(67)は「夜間に試合したい、冬の練習場所を確保したいと環境整備を望む声が高まっている」と話す。

練習場の充実を求める声は、少年野球チームからも上がっている。札幌市少年軟式野球連盟の深津与志弘

いて実戦的な練習ができるようになった。本当にありがたい」と話す。今冬も12月中旬ごろから利用する。

勝浦社長は「活動費が少なく練習場所に困っている小学生らに冬も充実した練習をしてほしい」と話している。利用時間は平日は後5時～8時、土日は午前10時～午後8時。問い合わせはカツウラ建機011・874・2151へ。

専務理事(42)は「少年野球チームは市内に150もあり、土日に利用希望がして奪い合いになっている」という。

深津専務理事が総監督を務める手稲鉄北イーグルスは、12月の積雪時には、靴を履いて学校のグラウンドを走るなど体力強化が習の中心になる。「冬の習場は特に足りない」と施設整備を訴えている。(門馬羊次、五十嵐知彦)